3 月 21 日

主教トマス・クランマー

Thomas Cranmer

（1489.7.2～1556.3.21）

～第一／第二祈祷書を作成～

「カンタベリー大主教
トマス・クランマー」

英国教会のカンタベリー大主教であるトマス・クランマーは、ノッティンガムシアのアスラクトンに生まれ、ケンブリッジのジーザスカレッジで学ぶ。

1529 年、ヘンリー8 世の離婚問題について、ケンブリッジのチューターであったクランマーは、ヘンリーに対し広く学界の意見を求め、またヨーロッパ諸大学の見解を求めるようにと進言することで認められる。

その結果、1533 年には第 69 代カンタベリー大主教に聖別され、同年 5 月 23 日にはヘンリー8 世とその妻キャサリンとの結婚について無効宣言を行い、同時にアン・ブーリンとの結婚を有効とする。また 1534 年には「国王至上法」が出され、イングランド教会はローマ教会との結び付きを断ち切る方向に向かって行く。

ヘンリー8 世の死去後、1547 年にはエドワード 6 世が登位するが、それとともに礼拝様式の改革を始め、1549 年には第一祈祷書を、その三年後にはよりプロテスタント寄りになった第二祈祷書を作成する。さらに 1553 年には「42 箇条」を作成する。彼は古典学者・歴史学者として、初期のキリスト教徒の生活を研究し、イングランド教会の礼拝を出来る限り初代教会のものに近づけようとした。

さらに教会内の聖像や聖画の撤去、サンクトゥス・ベルの使用禁止などの改革を行う。

だがクランマーは、エドワード 6 世の死去に伴い登位したローマ・カトリックの熱心な信者であった女王メアリーによって捕らえられ、ロンドン塔に監禁される。その後、オックスフォードに身柄を移され異端宣告を受け、聖職位を剥奪される。そしてボカード監獄にいる間に七度、転向声明書にサインをする。

しかし 1556 年 3 月 21 日に火刑に処せられることとなる。その時クランマーは、七回も自説の撤回に署名したその手を炎にかざして「この手が罪を犯したのだ」と叫んだという。そして彼は微動だにせず、叫び声一つもあげずに、火が燃え上がるや否や絶命したと伝えられる。(Y)

＜特祷＞

信ずる者の光、魂の牧者である全能の神よ、あなたは、その言葉によってあなたの羊を養い、その模範によって彼らを導くために、しもべ、主教トマス・クランマーを公会の主教に召されました。どうかわたしたちに恵みを与え、信仰を守り、その生涯に従うことができますように、主イエス・キリストによってお願いいたします。　　アーメン

出典：「イギリス教会史」J.R.H.ムアマン
「キリスト教人名辞典」